

四半期決算情報

本書はソシエテ ジェネラルが作成した英文資料の翻訳です。正確な内容については正文である英文の資料をお取り寄せの上、ご参照ください。

パリ、2013年8月1日

2013年第2四半期：良好な業績、バーゼル III 基準のコア Tier 1 比率は 9.4%

- 業務粗利益⁽¹⁾: 62 億ユーロ、前年同期比 2.3%増、事業収益は前年同期比 5.8%増
- 経費率⁽¹⁾：前年同期比 2.6 ポイント低下
- リスク引当比率⁽²⁾：前期比 8bp 低下
- グループ当期純利益：11 億 1,700 万ユーロ⁽¹⁾、ROE⁽¹⁾：10.0%
計上されたグループ当期純利益：9 億 5,500 万ユーロ
- コア Tier 1 比率（バーゼル III 基準）：9.4%、2013 年第 2 四半期に 73bp 上昇
- コア Tier 1 比率（バーゼル 2.5 基準）：11.1%

2013 年上半期：グループ当期純利益⁽¹⁾は 20 億ユーロ、良好なビジネスの成長

- 計上されたグループ当期純利益：13 億ユーロ
- 営業総利益⁽¹⁾：4.3%増加*
- 営業費用は前年同期比で安定*
- ROE⁽¹⁾：8.7%
- 一株当たり利益⁽³⁾：1.53 ユーロ

(1) 金融債務の再評価、レガシー資産および経常外項目を除く。

2013 年第 2 四半期の業務粗利益への金融債務の再評価の影響：5,300 万ユーロの利益、経常外項目：7,300 万ユーロの損失、レガシー資産：8,400 万ユーロの利益。営業費用への影響：レガシー資産：1,200 万ユーロの損失。引当金純繰入額：レガシー資産：1 億 3,100 万ユーロ、訴訟問題への引当金：1 億ユーロ。

グループ当期純利益への影響：1 億 6,200 万ユーロの損失、うちレガシー資産：4,200 万ユーロの損失、金融債務の再評価：3,500 万ユーロの利益、経常外項目：1 億 5,400 万ユーロの損失。財務情報の基準となる事項の第 8 項を参照。

(2) 訴訟問題およびレガシー資産の控除後。リスク引当比率は安定的に低下。

(3) 2013 年上半期における超劣後債および永久劣後債に係る税引後支払利息（それぞれ 1 億 2,500 万ユーロおよび 2,900 万ユーロ）の控除後。2013 年 6 月末時点の税引後キャピタルゲインおよび超劣後債の買戻しに係る未払い利息はゼロ。

* グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベース。

** 経済活動と関係ない項目（金融債務の再評価）、レガシー資産および経常外項目の控除後。財務情報の基準となる事項の第 8 項を参照。国際会計基準（IAS）第 19 号の実施に伴い、前年度の数値が修正されたことから、2012 年度決算に係る項目は修正再表示されている。

PRESS RELATIONS

LAETITIA MAUREL
+33(0)1 42 13 88 68
Laetitia.a.maurel@socgen.com

HELENE AGABRIEL
+33(0)1 41 45 98 33
Helene.agabriel@socgen.com

NATHALIE BOSCHAT
+33(0)1 42 14 83 21
Nathalie.boschat@socgen.com

ASTRID BRUNINI
+33(0)1 42 13 68 71
Astrid.brunini@socgen.com

ANTOINE LHERITIER
+33(0)1 42 13 68 99
Antoine.lheritier@socgen.com

SOCIETE GENERALE
COMM/PRS
75886 PARIS CEDEX 18
SOCIETEGENERALE.COM

A FRENCH CORPORATION WITH SHARE CAPITAL OF
EUR 998,320,373.75
552 120 222 RCS PARIS

2013年7月31日に開催されたソシエテ ジェネラルの取締役会において、当グループの2013年第2四半期および2013年上半期の決算が承認された。

2013年第2四半期の業務粗利益は62億3,300万ユーロ、グループ当期純利益は9億5,500万ユーロだった。

経済活動と関係ない項目および経常外項目の修正再表示後では、第2四半期の業務粗利益は61億6,900万ユーロ、グループ当期純利益は11億1,700万ユーロとなり、ROEは10.0%**となった。

2013年上半期の業務粗利益は113億2,100万ユーロ、グループ当期純利益は13億1,900万ユーロだった。経済活動と関係ない項目および経常外項目の修正再表示後では、上半期の業務粗利益は123億7,600万ユーロ、グループ当期純利益は19億5,800万ユーロだった。

この実績は、各事業部門における堅固な業績に支えられたもので、2013年第2四半期のグループ当期純利益への寄与は10億3,300万ユーロ（前年同期：2億9,800万ユーロ）だった。2013年上半期の寄与総額は21億2,700万ユーロ（前年同期：12億6,400万ユーロ）だった。

事業収益は、2013年第2四半期は前年同期比5.8%増および2013年上半期は前年同期比1.4%増となった。超低金利、依然として低迷するフランス国内の借入需要および経済の鈍化にも関わらず、強固な預金受入高にけん引され、**フランス国内ネットワーク部門**の収益は増加した。**国際リテールバンキング部門**は復元力を実証し、特に預金受入などの事業活動が好調だった。**専門金融サービス&保険部門**の収益は、保険事業の伸びおよび専門金融サービス事業の持続的に健全な利益率にけん引され、引き続き増加した。**コーポレート&インベストメントバンキング部門**は非常に満足のいく結果となり、特にグローバルマーケッツ業務が好調で、また、ストラクチャードファイナンス業務および債券発行業務における業界屈指の地位を確固たるものとした。プライベートバンキング事業では更なる回復が確認され、**プライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント&サービス部門**の収益は10.5%*となった。

当グループの経費率**は2012年第2四半期比および2012年上半期比共に改善した。2013年第1四半期に発表された経費削減策は実行の過程にあり、2013年5月に発表された、2015年までに9億ユーロを削減するとの計画のうち、1億7,000万ユーロの経費削減が達成されている。2013年第2四半期の営業費用は、絶対ベースで前年同期比1.9%減となったものの、上半期に変革計画関連の費用が計上されたことから、グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベースでは微増となった。

ベースポイント⁽¹⁾で計測される**事業リスク引当比率**は、2013年第2四半期には67bpと、前期の75bpより8bp低下した。リスク引当比率はリテールバンキング部門で低下し、専門金融サービス部門は全般的に安定しており、コーポレート&インベストメントバンキング部門は低水準を維持した。

2013年第2四半期末時点で当グループに適用された「バーゼルIII」基準のコアTier 1比率は9.4%⁽²⁾だった。「バーゼル2.5」基準に基づくコアTier 1比率は11.1%⁽²⁾だった。第3四半期に実施された対策により、2013年12月末までにバーゼルIII基準に基づくコアTier 1比率を9.5%にするという目標は確保された。

当グループの2013年上半期決算に関して、会長兼CEOであるフレデリック・ウデアは次のように述べている。

「2013年上半期にソシエテ ジェネラル グループは良好な業績を達成しました。これは堅固な事業基盤や、新たな経済・規制環境に適応することを目的に、過去数年にわたり実施してきた抜本的な対策に支えられたものです。2013年6月30日時点のバーゼルIII基準によるコアTier 1比率は9.4%となり、2013年末までに同比率を9.5%にする目標は確保されました。我々は今後もこれらの取り組みを継続いたします。当グループの変革計画の第2ステージも順調に進展しており、全ての事業部門において良好な事業・財務上の効果が確認されています。これらの動向は今後2年間継続され、特に収入のシナジー効果および営業効率の改善を優先いたします。きわめて堅固なバランスシートおよび社員のコ

⁽¹⁾ 年率ベース、訴訟問題および期初時点のレガシー資産の控除後

⁽²⁾ 2013年6月26日に発表された、デンマーク妥協案を含む、自己資本規制/自己資本指令（CRR/CRD）4の理解に基づいた、完全なバーゼルIII基準のコアTier 1比率による試算ベース。欧州銀行監督機構（EBA）のバーゼル2.5基準に基づくバーゼル2.5基準のコアTier 1比率（自己資本指令（CRD）3を取り入れたバーゼルII基準）を適用

ミットメントに支えられ、当グループは欧州屈指の大手銀行になることを目指すと共に、2015年末までに10%のROEを達成できると確信しております。」

1. グループ連結決算

単位：百万ユーロ	2012年 第2四半期	2013年 第2四半期	増減 (%)	2012年 上半期	2013年 上半期	増減 (%)
業務粗利益	6,272	6,233	-0.6%	12,583	11,321	-10.0%
比較可能ベース*			+4.4%			-6.3%
業務粗利益**	6,032	6,169	+2.3%	12,807	12,376	-3.4%
営業費用	(3,982)	(3,908)	-1.9%	(8,311)	(7,975)	-4.0%
比較可能ベース*			+2.8%			+0.1%
営業総利益	2,290	2,325	+1.5%	4,272	3,346	-21.7%
比較可能ベース*			+7.1%			-18.7%
引当金純繰入額	(822)	(986)	+20.0%	(1,724)	(1,913)	+11.0%
営業利益	1,468	1,339	-8.8%	2,548	1,433	-43.8%
比較可能ベース*			-5.6%			-44.8%
のれんの減損	(450)	0	NM	(450)	0	NM
公表された当期純利益	436	955	x2.2	1,171	1,319	+12.6%
当期純利益**	805	1,117	+38.7%	1,959	1,958	-0.0%
				2012年 上半期	2013年 上半期	
グループ税引後 ROE				6.0%	6.6%	

業務粗利益

当グループの業務粗利益は、2013年第2四半期は62億3,300万ユーロとなり、2013年上半期は113億2,100万ユーロとなった。

経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の控除後では、収益は2013年第2四半期で前年同期比2.3%**増の61億6,900万ユーロ、2013年上半期で前年同期比3.4%**減の123億7,600万ユーロだった。

- **フランス国内ネットワーク部門**の2013年第2四半期の収益は20億6,900万ユーロだった（上半期：40億8,400万ユーロ）。借入需要の大幅な減少にも関わらず、好調な預金受入高（前年同期比9.8%増、平均残高は2012年12月末比で6.2%増）に支えられ、2013年第2四半期の収益は大幅な伸びを見せ、前年同期比3.0%増（PEL/CEL口座に係る引当金変動の影響の控除後）となった。また、上半期の収益は前年同期比0.8%増となった（PEL/CEL口座に係る引当金変動の影響の控除後）。
- **国際リテールバンキング部門**の2013年第2四半期の業務粗利益は前年同期を僅かながら上回り（1.6%増*）、11億ユーロとなった。2013年上半期の業務粗利益は安定しており、前年同期比0.2%*増の22億3,100万ユーロとなった。ロシアおよびサハラ以南のアフリカでの好調な事業活動が、中・東欧での厳しい経済状況を相殺する形となった。
- **専門金融サービス&保険部門**の2013年第2四半期の収益は前年同期比2.2%*増の8億9,100万ユーロとなった。2013年上半期の収益は前年同期比2.5%*増の17億5,900万ユーロだった。保険事業の収益は前年同期比8.9%*増の1億8,500万ユーロとなった（2013年上半期は前年同期比10.3%*増の3億6,800万ユーロ）。専門金融サービス事業は収益を維持し、新規事業の利益率を維持する方針が奏功し、2013年第2四半期の収益は前年同期比0.6%*増の7億600万ユーロとなり、2013年上半期の収益は前年同期比0.6%*増の13億9,100万ユーロとなった。

- **コーポレート&インベストメント バンキング部門**の 2013 年第 2 四半期の収益は、前年同期比 42.0%*増の 16 億 8,800 万ユーロ、2013 年上半期は前年同期比 18.4%*増の 35 億 9,200 万ユーロとなった。

主力事業部門の 2013 年第 2 四半期の収益は 16 億 400 万ユーロと、ユーロ圏危機やローン資産ポートフォリオの売却の影響を受けた前年同期の水準を大幅に上回った (23.3%*増)。上半期の収益は前年同期比 9.9%*増の 35 億 1,800 万ユーロとなった (前年同期 : 32 億 5,900 万ユーロ)。これらの業績は主に、グローバル マーケッツ業務における、ストラクチャード商品および株式デリバティブ事業が好調だったことに起因している。ファイナンス&アドバイザリー事業は引き続き、ストラクチャード ファイナンス業務に加えて、債券発行や株式発行業務におけるリーダーとしての地位から恩恵を受けた。

2013 年第 2 四半期の当部門のレガシー資産の収益への寄与は 8,400 万ユーロのプラスとなり (前年同期 : 1 億 1,200 万ユーロのマイナス)、また、2013 年上半期は 7,400 万ユーロのプラス (前年同期 : 1 億 6,900 万ユーロのマイナス) となった。しかしながら、これらのプラス寄与の恩恵は、リスク引当比率の上昇に加えて、2013 年 7 月に売却された、2013 年第 2 四半期における特定の証券化ポジションの再編の影響により、相殺されてしまった。

- **プライベート バンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門**の 2013 年第 2 四半期の業務粗利益は前年同期比 10.5%*増の 5 億 100 万ユーロだった。2013 年上半期の業務粗利益は前年同期比 3.7%*増の 9 億 5,800 万ユーロだった。当部門の収益はプライベート バンキング事業の収益の回復から恩恵を受け、2013 年第 2 四半期の収益は前年同期比 35.8%*増の 2 億 3,000 万ユーロとなった (2013 年上半期は前年同期比 19.2%*増の 4 億 3,600 万ユーロ)。ブローカー事業は引き続き厳しい市場環境から著しい影響を受けた。組織構造を新たな環境に適応させるための再編計画が現在実施されている。最後に、低金利環境の中、セキュリティーズ サービス事業は底堅さを実証し、2013 年第 2 四半期の収益は前年同期比 0.6%*減の 1 億 7,600 万ユーロとなった (2013 年上半期は前年同期比 0.9%*減の 3 億 3,200 万ユーロ)。

当グループの金融債務の再評価による**業務粗利益**への会計上の影響は、2013 年第 2 四半期は 5,300 万ユーロのプラスとなった一方で、2013 年上半期は 9 億 9,200 万ユーロのマイナスとなった。
(2012 年第 2 四半期および 2012 年上半期はそれぞれ 2 億 600 万ユーロおよび 2,500 万ユーロの増加)

営業費用

2013 年 3 月、当グループは以下の 3 つを目標とする、効率化改善プログラムの第 2 ステージに着手した : (1) 費用の削減および競争力の強化 ; (2) 当グループの運営方法の簡素化 ; (3) 事業間の費用シナジー効果の強化。2013 年上半期に実施した対策により、当グループは 2013~2015 年の期間に総額 9 億ユーロの費用を削減するとの目標のうち、既に 1 億 7,000 万ユーロの削減を達成している。当プログラムの実施に伴い発生した費用総額は 2013 年 6 月 30 日時点で 1 億 2,500 万ユーロだった。

2013 年第 2 四半期の営業費用は、全事業部門での経費削減努力を背景に、前年同期比 1.9%減 (絶対ベース) の 39 億 800 万ユーロとなった。グループ編成および為替相場の変動による影響を除いたベースでは、営業費用は 2.8%*増となった。これには変革計画および経費削減計画に関連する経常外費用が含まれている。上半期の営業費用は 79 億 7,500 万ユーロと前年同期の水準を大幅に下回った (前年同期比 4.0%減、グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベースでは横ばい)。経費削減計画に関連する経常外費用 (上半期 : 1 億 2,500 万ユーロ) の修正再表示後では、2013 年上半期の営業費用は前年同期の水準を 5.5%下回った。

営業効率の改善は全ての事業部門において確認された。2013 年第 2 四半期の経費率**は 63.2%と前年同期から 2.6 ポイント改善した。2013 年上半期の経費率は 64.2%**と、前年同期から 0.5 ポイントの改善となった。

2013 年第 2 四半期の経費率に関しては、フランス国内ネットワーク部門および専門金融サービス & 保険部門は前年同期比で全般的に安定していた一方で、国際リテール バンキング部門 (1 ポイントの改善) およびプライベート バンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門 (4.6 ポイントの改善) は大幅に改善した。コーポレート&インベストメント バンキング部門の経

費率が相当の改善となった理由としては、前年同期の収益が低迷していたことが挙げられ、主力事業の経費率は前年同期比で 11 ポイント改善した。

当グループの 2013 年上半期の経費率は、主にコーポレート&インベストメント バンキング部門およびプライベート バンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門において改善し、全体では前年同期から 3.7 ポイント改善した。リテール バンキング業務の経費率は 0.7 ポイント改善し、また、PEL/CEL 口座に係る引当金変動の影響の控除後では、フランス国内ネットワーク部門は 0.9 ポイント改善しており、専門金融サービス&保険部門は 1.4 ポイントの改善、国際リテール バンキング部門は 0.5 ポイントの改善となった。

営業利益

当グループの 2013 年第 2 四半期の営業総利益は 23 億 2,500 万ユーロ（前年同期比 7.1%*増）、2013 年上半期では 33 億 4,600 万ユーロ（前年同期：42 億 7,200 万ユーロ）となった。経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産による影響の控除後では、2013 年第 2 四半期の営業総利益は前年同期比 10.1%*増の 22 億 7,300 万ユーロであった（前年同期：20 億 6,400 万ユーロ）。

全体的な適宜修正後の 2013 年上半期の営業総利益は、絶対ベースでは前年同期比 2.1%減となったものの、グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベースでは前年同期比 1.5%*増となった。経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産による影響の控除後では、全体の営業総利益は前年同期比 4.3%*増となった。全ての事業部門において営業利益は増加し、コーポレート&インベストメント バンキング部門は 7.9%*増となり、また、リテール バンキング業務は堅固な伸びを見せた（フランス国内ネットワーク部門：1.2%*増、専門金融サービス&保険部門：4.3%*増、国際リテール バンキング部門：0.5%*増）。

2013 年第 2 四半期の**引当金純繰入額**は 9 億 8,600 万ユーロ（前年同期：8 億 2,200 万ユーロ）だった。

2013 年第 2 四半期に、当グループは訴訟問題に対して 1 億ユーロの引当金の積み増しを行った結果、上半期の訴訟問題に対する引当金の積み増し額は 2 億ユーロとなった。

2013 年第 2 四半期の**事業リスク引当比率**（ローン残高に占める割合で表示）は 67bp⁽²⁾と、前期（75bp⁽²⁾）の水準を下回った。

- 中規模企業に対する引当金の減少を反映し、**フランス国内ネットワーク部門**のリスク引当比率は 58bp と前期（65bp）から低下した。個人顧客の不良債権比率は依然として低水準にある。依然として厳しい経済環境の中、当グループは引当金の積み増しを行った。
- **国際リテール バンキング部門**のリスク引当比率は 150bp（前期：154bp）と全般的に安定していたが、地域によりトレンドはまちまちであった：チェコ共和国は低下し、ロシアは正常化した一方で、中・東欧は依然高水準だった。
- **専門金融サービス部門**のリスク引当比率は 115bp（前期：113bp）と全般的に安定していた。
- **コーポレート&インベストメント バンキング部門**の主力事業部門のリスク引当比率は 22bp（前期：20bp）と依然として低水準にあり、ローンポートフォリオの質の高さを実証するものであった。2013 年第 2 四半期のレガシー資産の引当金純繰入額は 1 億 3,100 万ユーロだった。

2013 年 6 月末時点の当グループの不良債権引当比率は 78%と、2013 年 3 月末から 1 ポイント上昇した。

2013 年第 2 四半期の**営業利益**は 13 億 3,900 万ユーロだった（前年同期：14 億 6,800 万ユーロ）。金融債務の再評価による影響を受け、2013 年上半期の営業利益は 14 億 3,300 万ユーロと、前年同期の水準を大幅に下回った。

経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の影響の修正再表示後では、2013 年第 2 四半期の営業利益は前年同期比 18.6%増の 15 億 1,800 万ユーロだった（前年同期：12 億 8,000 万ユーロ）。上半期の営業利益は 28 億 8,400 万ユーロだった（前年同期：29 億 7,600 万ユーロ）。

当期純利益

所得税（当グループの 2013 年第 2 四半期の実効税率：22.9%、前年同期：30.5%、2013 年上半期：22.6%）および少数株主持分の控除後では、2013 年第 2 四半期の当期純利益は 9 億 5,500 万ユーロ（前年同期：4 億 3,600 万ユーロ）となった。

経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の影響⁽¹⁾の修正再表示後では、グループ当期純利益は、2013年第2四半期は11億1,700万ユーロ（前年同期：8億500万ユーロ）、2013年上半期は19億5,800万ユーロとなった。

経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の影響の控除後の 2013 年第 2 四半期の当グループの ROE は 10.0%（絶対ベース：8.4%）だった。同様に、ROTE は 11.7%（絶対ベース：9.9%）だった。経済活動と関係ない項目、経常外項目およびレガシー資産の影響の控除後の 2013 年上半期の ROE は 8.7%（絶対ベース：5.6%）、そして ROTE は 10.2%だった。

超劣後債および永久劣後債⁽²⁾に係る支払利息の控除後では、2013 年上半期の一株当たり利益は 1.53 ユーロとなった。

⁽¹⁾ 2013 年第 2 四半期のグループ当期純利益への影響総額：1 億 6,200 万ユーロの損失、うちレガシー資産：4,200 万ユーロの損失、金融債務の再評価：3,500 万ユーロの利益、売却：2,100 万ユーロの利益、コーポレート&インベストメント バンキング部門への国際財務報告基準（IFRS）第 13 号の適用：7,500 万ユーロの損失、訴訟問題に対する引当金：1 億ユーロ。財務情報の基準となる事項の第 8 項を参照

⁽²⁾ 超劣後債および永久劣後債に係る税引後支払利息は、2013 年第 2 四半期に関してはそれぞれ 6,000 万ユーロおよび 1,500 万ユーロ、2013 年上半期に関してはそれぞれ 1 億 2,500 万ユーロおよび 2,900 万ユーロであった

2. グループの財務構造

2013年6月30日時点の当グループの**株主資本**は総額493億ユーロ⁽¹⁾、一株当たり有形純資産価値は48.39ユーロ（未実現キャピタルゲインの0.85ユーロを含む一株当たり純資産価値：56.43ユーロ）だった。当グループは2011年8月22日に締結した資産流動に関する契約に基づき、2013年第2四半期に600万株の自社株買いを実施すると共に、840万株を売却した。合計で、2013年上半期に、当グループは当契約に基づき、1,420万株の自社株買いを実施すると共に、1,450万株を売却した。

2013年6月末時点で、ソシエテ ジェネラルはトレーディング目的の保有分を除き、合計で、株主資本の2.85%相当となる、2,250万株の自社株（900万株の金庫株を含む）を保有していた。また同時点において、当グループは従業員に付与するストックオプションを賄うために140万株の自社株購入オプションを保有していた。

2013年6月30日時点の、保険、デリバティブ残高、現先取引および調整勘定の控除後の**資金調達済バランスシート**⁽²⁾は総額6,470億ユーロと、2012年6月30日の水準から2.9%（180億ユーロ）増加したが、2012年12月31日時点との比較では0.9%減の微減となった。

当グループは2013年第2四半期もバランスシート構造の強化を継続して行った。長期的な資金使途（売却可能／満期保有目的証券、顧客貸出および長期資産）に対する安定的な資金調達源（株主資本、顧客預金および中長期的な資金調達）の余剰額は760億ユーロと、過去12カ月間で550億ユーロ、2013年上半期には260億ユーロ増加した。2013年6月末時点で、当グループは総額191億ユーロ、平均満期期間6.3年の中長期債を発行しており、2013年の資金調達計画の全額をカバーしている。しかしながら、市場で資金調達を行う好機が訪れた際には、当グループは下半期にも債券発行を継続して行う予定である。

顧客預金総額も並行して増加（前年同期比：90億ユーロ増）したが、主に構造上の影響（子会社や資産の売却）を受け、顧客貸出残高は前年同期比230億ユーロの減少となった。その結果、**預貸率は111%**と、2012年6月末から11ポイント、2012年12月末から7ポイント**改善した**。

同時に、当グループは短期資金調達ニーズを大幅に削減し、2013年6月末時点の総額は1,100億ユーロと、過去3・四半期で320億ユーロ削減した。この動向は今年度を通して継続される予定である。また、当グループの流動性準備金は2012年6月末から360億ユーロ増加し（2013年上半期に170億ユーロ増加）、1,500億ユーロとなった。流動性準備金は、2013年6月末時点の当グループの短期リファイナンスニーズの136%（2012年6月末：100%）をカバーしている。

株主資本は520億ユーロと、2012年6月末の水準から10億ユーロ増加したが、2012年12月末時点との比較では横ばいとなった。

当グループの**リスク調整後資産**は2013年6月末時点で3,138億ユーロと、前期末時点より63億ユーロ（2.0%減）減少した。リスク調整後資産は2012年第4四半期比では3.2%減、前年同期比では8.4%減となっており、希少資源の最適化に対する当グループの持続的な取り組みを実証している。2013年より、リスク調整後資産には、従来適用されていた免除制度の終了に伴う当グループの保険会社に係る残高55億ユーロも含まれている。この変更および為替相場の変動による影響の修正再表示後では、残高は2012年12月末比4.3%減および前年同期比8.9%減となる。

2013年6月30日時点の信用リスク調整後資産がリスク調整後資産に占める割合は78.9%となっており、保険の控除後では、2012年第4四半期比および2012年第2四半期比で安定している。また、2013年6月30日時点の、市場リスクがリスク調整後資産に占める割合は8.4%と、2012年第4四半期比および2012年第2四半期比で一般的に安定的である。

2013年第2四半期末時点では、リテールバンキング業務（フランス国内ネットワークおよび国際リテールバンキング、専門金融サービス&保険）が当グループのリスク調整後資産の63.4%を構成しており、保険の控除後では、2012年第4四半期比で0.9ポイント増、前年同期比で3.6ポイント増となっている。

⁽¹⁾ この数値には主に (i) 45億ユーロの超劣後債および (ii) 16億ユーロの永久劣後債が含まれる

⁽²⁾ 資金調達済バランスシート/グループの預貸率/流動性準備金：詳細は財務情報の基準となる事項の第7項を参照

各事業部門の詳細な変動は、当グループのレバレッジの削減/厳格なリスク管理戦略を裏付けている：専門金融サービス部門のリスク調整後資産は、相当な資源の制約により、2012年第2四半期比で3.7%減および2012年第4四半期比で1.4%減となった。フランス国内ネットワーク部門のリスク調整後資産は、保険の控除後では、2012年12月末比で0.7%増と安定しており、2012年第2四半期比では2.9%増となった。これらは当グループのリスク調整後資産の28.8%を構成している。国際リテールバンキング部門のリスク調整後資産は、主にNSGB子会社を売却したことにより、2012年第4四半期および2012年第2四半期の水準を大幅に下回った（それぞれ10.7%減および14.4%減）。コーポレート&インベストメントバンキング部門の主力事業部門の残高は2012年第4四半期比2.0%減および2012年第2四半期比7.8%減となった。

2013年第2四半期のレガシー資産の残高は当グループのリスク調整後資産の2.4%を構成しており、2012年第4四半期比23.4%減および2012年第2四半期比59.1%減となった。

2013年6月30日時点の、「バーゼル2.5」基準に基づく当グループのTier 1比率は12.7%（2012年12月末：12.5%、2012年6月末：11.6%）となった。2013年6月30日時点の、「バーゼル2.5」基準に基づくコアTier 1比率は11.1%（2012年12月末：10.7%、2012年6月末：9.9%）と、2013年第1四半期のコアTier 1比率を95bp押し下げる要因となった規制の変更（うち、保険会社に対する免除制度の終了：69bpの低下、国際会計基準（IAS）第19号の履行に伴う退職給付準備金の株主資本への統合：17bpの低下、国際財務報告基準（IFRS）第13号に基づく、デリバティブの信用リスクに関する評価の調整（信用評価調整：CVA）：9bpの低下）にも関わらず、前年同期から120bp超増加した。

信用評価調整と対照的で、銀行がコミットしているデリバティブに関する評価の調整である債務評価調整（DVA）（デリバティブに関連する金融債務が損益計算書に与える影響を測定）は、コアTier 1比率を算出する際には考慮されないため、配当可能利益の算出には含まれないことは留意すべきである。

2013年第2四半期末時点の、「バーゼルIII」基準（自己資本規制/自己資本指令（CRR/CRD）4を適用）に基づき算出したコアTier 1比率は9.4%だった。資本形成および堅固な収益（+28bp）、レガシー資産ポートフォリオの売却（+12bp）、事業部門によるニーズの減少（+28bp、主にCVAの管理に関連するもので、そのみでも+19bpの資本削減効果をもたらしている）、それ以外の累積的影響（+5bp）を背景に、バーゼルIII基準のコアTier 1比率は1・四半期で73bp上昇した。既に実施された施策（かかる比率に5bpの増加効果をもたらす従業員割当増資および約15bpの増加となるレガシー資産ポートフォリオのラインの売却）の結果、2013年末までにコアTier 1比率を9.5%とするとの目標は確保された。今後2・四半期を通して収益の計上が見込まれることから、バーゼルIII基準のコアTier 1比率は、現時点から2013年12月末に向けて引き続き上昇する見通しである。

当グループは引き続き、ムーディーズよりA2、S&PよりAの格付けを付与されている。2013年7月12日のフランスの格付けの引き下げに伴い、フィッチは2013年7月17日に当グループの格付けをAへ引き下げた。最後に、2013年5月30日に、当グループはDBRSよりAA（low）の格付けを付与された。

3. フランス国内ネットワーク部門

単位：百万ユーロ	2012年	2013年	増減	2012年	2013年	増減
	第2四半期	第2四半期		上半期	上半期	
業務粗利益	2,037	2,069	+1.6%	4,083	4,084	+0.0%
			3.0%(a)			0.8%(a)
営業費用	(1,277)	(1,298)	+1.6%	(2,624)	(2,608)	-0.6%
営業総利益	760	771	+1.4%	1,459	1,476	1.2%
			+5.3%(a)			+3.3%(a)
引当金純繰入額	(212)	(274)	+29.2%	(415)	(575)	+38.6%
営業利益	548	497	-9.3%	1,044	901	-13.7%
当期純利益	360	319	-11.4%	686	575	-16.2%

(a) PEL/CEL 関連控除後

2013年第2四半期のフランス国内ネットワーク部門の事業活動は、厳しいマクロ経済環境にもかかわらず堅調に推移した。

預金獲得競争が激化する中、預金残高は前年同期比9.8%増の1,547億ユーロとなった。増加の主なけん引役は、前年同期比27.0%の大幅増となった定期預金の新規受入高だった。規制貯蓄（PEL貯蓄口座を除く）も、Livret A（通帳預金口座）残高を筆頭に大きく伸びた（10.8%増）。

フランス国内ネットワーク部門は引き続き法人、個人とも顧客に資する強い姿勢を示した。しかしながら、厳しい経済環境を背景に資金需要の低調が続き、貸出残高は前年同期比横ばいの1,759億ユーロにとどまった。

法人顧客向けの貸出残高は790億ユーロ（0.6%減）と横ばいだった。グループは引き続き企業を支援し、資金ニーズに対応した。営業ローン残高は前年同期比3.0%増の132億ユーロだったが、投資ローン残高は、経済停滞による需要低迷を受けて2.0%減の627億ユーロとなった。

個人向けの貸出残高は、住宅ローンを中心に（0.9%増）、前年同期比0.6%増加した。

2013年第2四半期の預貸率は114%で、前期の118%、前年同期の125%から改善した。

当部門の収益は前年同期比1.6%増加し、20億6,900万ユーロの業務粗利益となった。PEL/CEL関連の影響を除いた業務粗利益は同3%増加した。利ざやが前年同期比1.9%拡大したが（PEL/CEL関連控除後）、これは預金残高の増加と貸出利ざやの上昇が効いたためと考えられる。手数料は前年同期比4.4%増加したが、2013年上半期では前年同期比横ばいに終わった。

2013年第2四半期の営業費用は前年同期比1.6%増で、当部門の営業総利益は同5.3%増の7億7,100万ユーロとなった（PEL/CEL関連控除後）。当部門の2013年上半期の営業総利益は14億7,600万ユーロとなり、前年同期比で1.2%増加した（PEL/CEL関連控除後では3.3%増）。

2013年第2四半期の当部門のリスク引当比率は58bpと、前期（65bp）から低下した。

2013年第2四半期のフランス国内ネットワーク部門のグループ当期純利益への寄与は、3億1,900万ユーロだった。上半期全体のグループ当期純利益への寄与は、5億7,500万ユーロだった。

4. 国際リテールバンキング部門

単位：百万ユーロ	2012年 第2四半期	2013年 第2四半期	増減	2012年 上半期	2013年 上半期	増減
業務粗利益	1,239	1,100	-11.2%	2,465	2,231	-9.5%
比較可能ベース*			+1.6%			+0.2%
営業費用	(758)	(662)	-12.7%	(1,516)	(1,360)	-10.3%
比較可能ベース*			-0.6%			-0.0%
営業総利益	481	438	-8.9%	949	871	-8.2%
比較可能ベース*			+5.0%			+0.5%
引当金繰入額	(360)	(279)	-22.5%	(710)	(552)	-22.3%
営業利益	121	159	+31.4%	239	319	+33.5%
比較可能ベース*			+25.7%			+0.3%
当期純利益	(231)	59	NM	(186)	138	NM

国際リテールバンキング部門の2013年第2四半期は、年初来の動きを踏襲するものとなった。欧州経済が減速する中、当部門の貸出残高は⁽¹⁾、前年同期比1.3%増の617億ユーロとなった。法人顧客の減少（3.8%減）とは対照的に、個人顧客は高い伸び（8.3%増）を示した。預金残高は、ロシア（8.8%増）、中・東欧諸国（11.5%増）、サハラ以南のアフリカ（8.9%増）の好調な新規受入高の伸びを受けて大幅に増加し（5.3%増）、636億ユーロとなった。預貸率は97%で、2012年12月から4.2ポイント、同6月末から4ポイントそれぞれ低下した。

このプラスの数量効果にもかかわらず、当部門の営業地域である主要欧州諸国の低金利環境が引き続き重荷となり、2013年第2四半期の当部門の収益（11億ユーロ）は前年同期比1.6%増にとどまった。この傾向は地域による業績のばらつきを反映している。収益はロシア、ルーマニア、その他の中・東欧諸国、サハラ以南のアフリカで増加した一方、チェコ共和国、地中海沿岸地域では減少した。

2013年第2四半期のコストは前年同期比0.6%減少した。サハラ以南のアフリカと地中海沿岸地域で支店網の拡大が続いたものの（年間37支店の開設）、グループ全体で実施した営業効率対策が寄与した。

2013年第2四半期の当部門の営業総利益は4億3,800万ユーロと、前年同期比5.0%増加した。

国際リテールバンキング部門の2013年第2四半期のグループ当期純利益への寄与は、5,900万ユーロだった（2012年第2四半期は、2億5,000万ユーロののれん代償却の計上により2億3,100万ユーロのマイナス寄与）。

2013年上半期では、当部門の収益は22億3,100万ユーロ、営業総利益は8億7,100万ユーロ、グループ当期純利益への寄与は1億3,800万ユーロだった。

ロシアの決算は（ロスバンク、デルタクレジットおよびその国際リテールバンキング部門の連結子会社、およびラスファイナンスの25%を含む）、明るい結果となった。2013年第2四半期の事業活動は引き続き好調で、特に個人顧客向けの貸出残高が目立って伸びたほか（前年同期比20.5%増）、預金残高も同8.8%増加した。

業務粗利益は前年同期比10.3%⁽²⁾増加した。コストは、数四半期にわたってグループが実施してきた合理化策が奏功し、5%近いインフレにもかかわらず引き続き抑制された（2.2%増）。2013年

(1) 当グループは2013年3月26日、傘下のエジプト子会社のNSGBをQNBに売却した。NSGBの収益は国際リテールバンキング部門の収益（2013年の2カ月の実績）に含まれるが、各種残高は会計上、2012年末以降「売却目的保有資産」に再分類されている。NSGBの売却益はコーポレートセンターの2013年の決算に計上されている。また、グループは2012年末にギリシャの子会社ゲニキを処分した。

(2) 2012年末現在、ベルロスバンク（ベラルーシ）およびロスバンクの債権回収子会社であるAVDは、グループの事業見直しの一環として売却された。

第 2 四半期のグループ当期純利益への寄与は、前年同期の 2 億 7,100 万ユーロのマイナス寄与（2 億 5,000 万ユーロののれん代償却を含む）に対して、1,000 万ユーロのプラス寄与となった。最終的に SG ロシア⁽³⁾の事業は、2013 年第 2 四半期のグループ当期純利益に 2,600 万ユーロのプラス寄与をした。

チェコ共和国では経済環境の低迷にもかかわらず、コメルチニ バンカ（KB）の事業の好調さがさらに裏づけられた。貸出残高は 2012 年 6 月末に比べて 4.9%*増加し、預金残高も同 5.0%*増加した。しかしながら、2013 年の預金利ざやの持続的低下と 2012 年第 2 四半期に計上した非経常項目のキャピタルゲイン益（KB による CMZRB 持分の売却）の反動が重なり、収益は前年同期比減少した（14%*減）。営業費用は小幅の増加にとどまった（0.8%*増）。2013 年第 2 四半期のグループ当期純利益への寄与は 6,000 万ユーロだった（前年同期は 8,100 万ユーロ、前期は 5,100 万ユーロ）。

ルーマニアでは、改善の兆しは見えるものの厳しい経済環境が続く、BRD の貸出残高は 2012 年 6 月末から減少した（5.9%*減）。住宅ローンを中心に個人顧客セグメントの貸出残高は伸びたが、法人セグメントの落ち込みを相殺するには至らなかった。一方、預金の新規受入高は小幅の増加だった（0.9%*増）。ルーマニアの 2013 年第 2 四半期の収益は 1 億 4,700 万ユーロ（前年同期比 8.1%*増）となったうえ、BRD の営業効率改善策（人員、支店数の削減）を背景にコストも圧縮された（8.4%*減）。引当金繰入純額は前年同期比、前期比とも減少し、その結果、2013 年第 2 四半期のグループ当期純利益への寄与は損益なしとなった（前年同期は 1,500 万ユーロのマイナス寄与）。

その他の中・東欧諸国では、法人顧客を中心に預金残高が引き続き大幅に伸びた一方（前年同期比 11.5%*増）、貸出業務は同横ばいだった（0.2%*減）。こうした中、収益は前年同期比 3.1%*増加した。営業費用は、グループのコスト削減策を反映して前年同期比で小幅減少した（0.7%*減）。この地域の営業総利益は 3,800 万ユーロだった。

地中海沿岸地域では、預金残高が小幅増加した（0.9%*増）。アルジェリアとチュニジアの新規受入高が好調だった一方、モロッコは減少を記録した。貸出残高は 2012 年 6 月末に比べて 1.1%*減少した。こうした中、収益は前年同期比 9.5%*減少した。営業費用は、支店網の拡大（年間 18 支店の開設）と地元の高インフレを受け、2.2%*増加した。

サハラ以南のアフリカでは、法人顧客を中心に預金の新規受入高が引き続き好調だった（8.9%*増）。一方、貸出残高は、コートジボワールの落ち込みが響き、その他の国々の業績は好調だったものの小幅増加にとどまった（1.4%*増）。グループは年間 19 支店を開設し、支店網を拡大した。2013 年第 2 四半期の全体の収益は前年同期比 13.4%*増加し、営業費用は引き続き抑制された（4.3%*増）。その結果、この地域の 2013 年第 2 四半期の経費率は、前年同期の 59%から 55%に改善した。

⁽³⁾ SG ロシアの業績：ロスバンク、デルタクレジットバンク、ラスファイナンスバンク、ソシエテ ジェネラル インシュアランス、ALD オートモーティブ、およびそれらの連結子会社の当事業業績への寄与

5. 専門金融サービス & 保険部門

単位：百万ユーロ	2012年	2013年	増減	2012年	2013年	増減
	第2四半期	第2四半期		上半期	上半期	
業務粗利益	877	891	+1.6%	1,726	1,759	+1.9%
比較可能ベース*			+2.2%			+2.5%
営業費用	(453)	(459)	+1.3%	(908)	(901)	-0.8%
比較可能ベース*			+2.9%			+0.8%
営業総利益	424	432	+1.9%	818	858	+4.9%
比較可能ベース*			+1.4%			+4.3%
引当金繰入額	(168)	(153)	-8.9%	(334)	(308)	-7.8%
営業利益	256	279	+9.0%	484	550	+13.6%
比較可能ベース*			+7.5%			+11.2%
当期純利益	167	197	+18.0%	330	389	+17.9%

専門金融サービス & 保険部門は以下の事業により構成されている。

- (i) 専門金融サービス事業（車両オペレーショナルリース・車両管理、設備ファイナンス、消費者金融）
- (ii) 保険事業（生命保険、人的損害賠償保険、物的損害賠償保険）

2013年第2四半期の専門金融サービス & 保険部門は引き続き良好な業績を示し、グループ当期純利益への寄与は前年同期比 18.0%増の1億9,700万ユーロに上った。

2013年第2四半期の専門金融サービス & 保険部門の営業利益は、前年同期比 7.5%*増の2億7,900万ユーロとなった。

車両オペレーショナルリース・車両管理事業においては、管理車両台数が力強い伸び（2012年6月末比 5.2%⁽¹⁾増）を示し、2013年6月末の管理車両台数は約980,000台に達した。自動車メーカーとの提携契約の順調な進展と銀行のネットワークの活用が車両台数の拡大を下支えした。

投資の減速を背景に、設備ファイナンス事業の新規契約高（ファクタリングを除く）は前年同期比 8.1%*減の17億ユーロとなった。バンダー・プログラム事業を中心に築き上げた当事業の強固な地位が奏功し、利ざやは高水準で維持された。契約残高（ファクタリングを除く）は2012年6月末比 4.2%*減の172億ユーロとなった。

低迷する環境の中、2013年第2四半期の消費者金融事業の新規貸出高は、フランスとドイツにおける提携契約に支えられ、前年同期比微減（1.9%*減）の26億ユーロに留まり、回復基調にあることが実証された。消費者金融貸出残高は2012年6月末比 3.5%*減の213億ユーロであった。

専門金融サービス事業の業務粗利益と営業費用はそれぞれ前年同期比ほぼ横ばいの7億600万ユーロと3億9,000万ユーロとなった。営業総利益は3億1,600万ユーロだった。

専門金融サービス事業の引当金繰入純額は引き続き改善し、2012年第2四半期の1億6,800万ユーロ（128bp）から1億5,300万ユーロ（115bp）に減少した。

2013年上半期の専門金融サービス事業は外部資金調達を取り組みを継続させ、当上半期は総額22億ユーロの外部資金調達を行った。この中には主にALDオートモーティブ初の債券発行と約10億ユーロの売掛債権の証券化プログラムが含まれる。

2009年以来の当部門に対する安定的な資本配分を背景に、2013年第2四半期の専門金融サービス &

⁽¹⁾グループ編成変更の影響の控除後

保険部門のグループ当期純利益への寄与は1億1,600万ユーロに上り、ROEは12.7%となった。上半期のグループ当期純利益への寄与は2億2,800万ユーロだった。

2013年第2四半期の**保険事業**は良好な業績を示し、業務粗利益は前年同期比8.9%*増の1億8,500万ユーロに拡大した。

2013年第2四半期も生命保険事業の契約残高は拡大基調を続け、817億ユーロ（2012年6月末比6.9%*増）に達しており、純資金流入は前年同期比大幅増の2億ユーロに増加した。人的損害賠償保険事業と物的損害賠償保険事業はポーランドとロシアを中心とする海外事業の拡大をけん引役に力強い成長を示し、受取保険収入は前年同期比29.6%*の増加となった。

保険事業のグループ当期純利益への寄与は、2013年第2四半期が8,100万ユーロ、2013年上半期が1億6,100万ユーロだった。

6. コーポレート&インベストメントバンキング部門

単位：百万ユーロ	2012年 第2四半期	2013年 第2四半期	増減	2012年 上半期	2013年 上半期	増減
業務粗利益	1,223	1,688	+38.0%	3,090	3,592	+16.2%
比較可能ベース*			+42.0%			+18.4%
うちファイナンス&アドバイザー	389	402	+3.3%	665	877	+31.9%
比較可能ベース*			+5.2%			+33.9%
うちグローバル マーケッツ (1)	946	1,202	+27.1%	2,594	2,641	+1.8%
比較可能ベース*			+30.8%			+3.7%
うちレガシー資産	(112)	84	NM	(169)	74	NM
営業費用	(1,005)	(1,025)	+2.0%	(2,225)	(2,186)	-1.8%
比較可能ベース*			+3.9%			-0.4%
営業総利益	218	663	x3.0	865	1,406	+62.5%
比較可能ベース*			x 3,3			+67.6%
引当金純繰入額	(84)	(180)	x2.1	(237)	(254)	+7.2%
うちレガシー資産	(38)	(131)	x3.4	(153)	(166)	+8.5%
営業利益	134	483	x3.6	628	1,152	+83.4%
比較可能ベース*			x 4,1			+91.4%
当期純利益	131	374	x2.9	482	868	+80.1%

(1) うち「エクイティ」は2013年第2四半期に6億6,600万ユーロ（前年同期：4億7,000万ユーロ）、「債券・為替・コモディティ」は同5億3,700万ユーロ（前年同期：4億7,600万ユーロ）

コーポレート&インベストメントバンキング部門の2013年第2四半期の収益は16億8,800万ユーロと、前年同期から大幅に増加した（38.0%増）。

コーポレート&インベストメントバンキング部門の主力事業は、前年同期比20.1%増の16億400万ユーロの収益を記録した。さまざまな非経常項目（2013年第2四半期はCVA/DVA関連⁽¹⁾で1億600万ユーロのマイナス、リーマン賠償請求による回収分で9,800万ユーロのプラス、税務訴訟関連で1億900万ユーロのマイナス、2012年第2四半期は貸出金売却に伴う正味割引額関連で1億5,900万ユーロのマイナス）の修正再表示後では、収益は前年同期比15.2%増だった。

エクイティ業務は6億6,600万ユーロと、アジア（特に日本）のストラクチャード商品、フロー商品を中心に良好な事業成績を収めた。CVA/DVAの影響（8,000万ユーロのマイナス）とリーマン賠償請求による回収益の修正再表示後では、収益は前年同期比38.3%⁽²⁾増となった。

債券・為替・コモディティ業務の2013年第2四半期の収益は、前年同期比17.2%⁽²⁾増の5億3,700万ユーロだった（2013年第2四半期に4,100万ユーロのマイナスとなったCVA/DVAの影響を除く）。四半期末の不安定な市場環境の中でこれだけの良好な実績を上げられたのは、ストラクチャードプロダクトのもつ商品力と金利、クレジット業務の底堅さがあったためと考えられる。

SG CIBはまた、「オーバーオール・ディーラーズ」の上位5位にランクインし（リスク・インスティテュショナル・インベスター・ランキング2013年）、今四半期もその卓越した存在感を示した。

ファイナンス&アドバイザー事業の収益は4億200万ユーロと、前年同期比で増加した（7.5%⁽²⁾増）。しかしながら、前年同期はレバレッジ投資解消の一環である貸出金売却に伴うネットディスカウントにより1億5,900万ユーロのマイナスが生じ、業務粗利益が減少していた。同様に、2013

⁽¹⁾ 国際財務報告基準（IFRS）第13号の新規適用後の信用リスクに関わる公正価値調整

⁽²⁾ グループ編成変更による影響の控除後

年第 2 四半期の収益には、税務訴訟関連の 1 億 900 万ユーロのマイナス、および CVA/DVA 調整の 1,500 万ユーロのプラスが含まれている。2012 年、2013 年のこれらの各項目を修正再表示すると、収益は前年同期比減少した (6.9%減)。事業面では、2013 年第 2 四半期は天然資源、インフラおよび輸出関連のファイナンスの良好な実績、および債券発行とレバレッジド・ファイナンスの活況が目立った。この業績により、SG CIB は市場で築いた地位をより堅固なものにしたほか、「フランス国内の株式および株式関連発行」で首位、「EMEA の株式および株式関連発行」で第 10 位、「すべてのユーロ社債」で第 3 位にランクされた (トムソン・ロイター-IFR、2013 年 6 月末時点のランキング)。また、SG CIB は「ベスト・オーバーオール・コモディティファイナンス・バンク」に選ばれた (トレード・ファイナンス 2013 年)。最後に、この事業ラインは 2013 年第 2 四半期に複数の案件で主導的役割を果たした。主なものでは、シノペック社の 35 億米ドルの債券発行で SG CIB が共同主幹事/共同ブックランナーを務めたほか、アンゴラのカンバンベ水力発電所の近代化に向けたマルチソース・ファイナンスでも主幹事に任命された。

レガシー資産は、2013 年第 2 四半期の収益に 8,400 万ユーロのプラス寄与となった。2013 年 5 月 8 日、ソシエテ ジェネラルは米国の金融保証会社 MBIA との訴訟の和解を発表し、これによりレガシー資産の圧縮が大きく進んだ。その結果、非投資適格資産の残高は 2012 年 12 月から 2013 年 7 月までの期間で半減した (2013 年 7 月末時点の正味簿価は 15 億ユーロ)。レガシー資産ポートフォリオの収益は、2012 年上半年期の 1 億 6,900 万ユーロのマイナスに対し、2013 年上半年期は 7,400 万ユーロのプラスとなった。

当部門の 2013 年第 2 四半期の**営業費用**は、前年同期比 3.9%*増の 10 億 2,500 万ユーロとなった。2013 年上半年期の営業費用は、前年同期比 0.4%*減の 21 億 8,600 万ユーロだった (2012 年上半年期は 22 億 2,500 万ユーロ)。

2013 年第 2 四半期の当部門主力業務の**リスク引当比率**は依然低く、22bp だった。レガシー資産の引当金繰入純額は 1 億 3,100 万ユーロで、主に 2013 年第 2 四半期中に再構築され、同 7 月中に売却された証券化ポジションに関するものだった。

コーポレート&インベストメント バンキング部門の 2013 年第 2 四半期のグループ当期純利益への寄与は、前年同期の 1 億 3,100 万ユーロに対して 3 億 7,400 万ユーロだった。

2013 年上半年期のグループ当期純利益への寄与は、前年同期比 87.1%*増の 8 億 6,800 万ユーロだった。

7. プライベートバンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門

単位：百万ユーロ	2012年 第2四半期	2013年 第2四半期	増減	2012年 上半期	2013年 上半期	増減
業務粗利益	533	501	-6.0%	1,086	958	-11.8%
比較可能ベース*			+10.5%			+3.7%
営業費用	(472)	(421)	-10.8%	(956)	(818)	-14.4%
比較可能ベース*			+2.7%			+0.5%
営業利益	62	76	+22.6%	123	138	+12.2%
比較可能ベース*			+70.4%			+33.8%
当期純利益	(129)	84	NM	(48)	157	NM
うちプライベートバンキング	14	45	x3.2	50	88	+76.0%
うちアセットマネジメント	(168)	24	NM	(131)	50	NM
うちSG SS およびブローカー	25	15	-40.0%	33	19	-42.4%

プライベートバンキング、グローバル インベストメント マネジメント&サービス部門は、以下の 4 事業により構成されている。

- (i) プライベートバンキング事業 (ソシエテジェネラルプライベートバンキング)
- (ii) アセットマネジメント事業 {アムンディ、TCW(2013年2月6日付で売却)}
- (iii) ソシエテジェネラル セキュリティーズ サービス事業 (SGSS)
- (iv) ブローカー事業 (ニューエッジ)

2013年第2四半期のグローバル インベストメント マネジメント&サービス部門はグループ当期純利益への寄与を増大させ、2011年第1四半期以降で最高の業績を挙げた。

プライベートバンキング事業では、健全な業容拡大を背景に、業務粗利益が大幅な回復(前年同期比 35.8%*増、2012年第2四半期に計上された経常外項目控除後では 25.7%*増)を示した。セキュリティーズ サービス事業の預かり資産残高と管理資産残高は共に拡大し、2012年6月末比でそれぞれ 7%増と 15%増となった。事業再編にもかかわらず、ニューエッジは 2013年第1四半期とほぼ同水準となる安定的な収益を確保した。

2013年第2四半期の当部門の業務粗利益は前年同期比 10.5%*増(2013年初頭の TCW 売却を含む絶対ベースでは同 6%減)の 5 億 100 万ユーロとなった。営業費用は前年同期を僅かに上回る(絶対ベースでは同 10.8%減) 4 億 2,100 万ユーロであった。営業総利益は前年同期比 83.3%*増(絶対ベースでは同 31.1%増)の 8,000 万ユーロに拡大した。当部門のグループ当期純利益への寄与は、前年同期の 1 億 2,900 万ユーロのマイナスから 8,400 万ユーロに改善し、のれん代の評価損を控除しても 7,100 万ユーロとなった。

上半期の業務粗利益は、前年同期比 3.7%*増の 9 億 5,800 万ユーロだった。営業費用は前年同期比ほぼ横ばい*の 8 億 1,800 万ユーロであり、上半期の当部門のグループ当期純利益への寄与は、2012年6月末の合計 4,800 万ユーロのマイナスから 1 億 5,700 万ユーロのプラスに改善し、のれん代の評価損を除いても 1 億 5,200 万ユーロであった。

プライベートバンキング事業

プライベートバンキングはファイナンシャル タイムズ誌とインベスターズ クロニクル誌から「ベスト UK プライベートバンク オブ ザ イヤー」に選出された。2013年6月末のプライベートバンキングの運用資産残高は前年同期比 34 億ユーロの低下となった。この運用資産残高は、6 億ユーロの資金流出、24 億ユーロのマイナスの「市場」効果、2 億ユーロのマイナスの「為替」効果、2 億ユーロのマイナスの「編成変更」効果を織り込んでいる。

当事業の業務粗利益は、高水準の手数料収入と利ざやに加えて、経常外収益の寄与もあり、前年同期比 35.8%*増の 2 億 3,000 万ユーロに増加した。このようなトレンドが奏功し、業務粗利益率は 2012 年第 2 四半期の 82bp から 106bp へと大幅に改善した。営業費用は前年同期比 9.2%*増の 1 億 6,600 万ユーロだった。その結果、2013 年第 2 四半期の営業総利益は 6,400 万ユーロ（前年同期：1,700 万ユーロ）となった。また、当事業のグループ当期純利益への寄与は 4,500 万ユーロ（前年同期：1,400 万ユーロ）であった。

2013 年上半年期の業務粗利益は前年同期比 19.2%*増の 4 億 3,600 万ユーロであった。営業費用は前年同期比 8.5%*増の 3 億 2,100 万ユーロとなり、上半期のグループ当期純利益への寄与は 2012 年 6 月末の合計 5,000 万ユーロから 8,800 万ユーロに膨らんだ。

ソシエテジェネラルセキュリティーズサービス (SGSS)、ブローカー事業 (ニューエッジ)

セキュリティーズサービス事業の預かり資産残高は 2012 年 6 月末比 7%増の 3 兆 5,700 億ユーロ、管理資産残高は同 15%増の 4,910 億ユーロにそれぞれ拡大した。**ブローカー事業**の 2013 年第 2 四半期の市場シェアは 11.9%（2012 年第 2 四半期比 0.2 ポイント増）に改善し、収益は 2013 年第 1 四半期比で安定的に推移した。

2013 年第 2 四半期のセキュリティーズサービス事業とブローカー事業の収益は、ブローカー事業の収益減が響き、前年同期比 6.0%*減（絶対ベースでは 6.3%減）の 2 億 6,700 万ユーロとなった。これらの事業では営業効率改善への取り組みを継続させ、営業費用は前年同期比 2.8%*減の 2 億 4,600 万ユーロに削減された。その結果、営業利益は前年同期の 3,200 万ユーロから 2,100 万ユーロに減少した。2013 年第 2 四半期のグループ当期純利益への寄与は前年同期の 2,500 万ユーロに対し、1,500 万ユーロに留まった。

2013 年上半年期の業務粗利益は前年同期比 7.4%*減の 5 億 1,000 万ユーロとなった。営業費用は 4.8%*減の 4 億 8,000 万ユーロに減少し、当事業のグループ当期純利益への寄与は 1,900 万ユーロだった。

アセットマネジメント事業

アムンディの寄与は、2013 年第 2 四半期が 2,700 万ユーロ（2012 年第 2 四半期：2,400 万ユーロ）、同年上半期が 5,300 万ユーロ（2012 年上半年期：6,100 万ユーロ）であった。

8. コーポレート センター

単位：百万ユーロ	2012年 第2四半期	2013年 第2四半期	増減	2012年 上半期	2013年 上半期	増減
業務粗利益	363	(16)	NM	133	(1,303)	NM
比較可能ベース*			NM			NM
営業費用	(17)	(43)	x2.5	(82)	(102)	+24.4%
比較可能ベース*			x 2,5			+24.4%
営業総利益	346	(59)	NM	51	(1,405)	NM
比較可能ベース*			NM			NM
引当金繰入額	1	(96)	NM	(21)	(222)	x10.6
営業利益	347	(155)	NM	30	(1,627)	NM
比較可能ベース*			NM			NM
当期純利益	138	(78)	NM	(93)	(808)	NM

コーポレートセンターには以下の項目が含まれる。

- グループの不動産ポートフォリオ、オフィス、その他の土地建物
- 銀行株および産業株の株式ポートフォリオ
- グループの財務機能、部門横断的なプロジェクトに関連する特定の費用、リインボイスされないグループの特定費用

コーポレートセンターの業務粗利益の中で、特にグループの金融債務の再評価額が2013年第2四半期は5,300万ユーロの利益（前年同期：2億600万ユーロの利益）を計上した。また、当四半期の業務粗利益には、ピラエウスバンクの持分売却益3,300万ユーロも含まれる。

2013年第2四半期の営業費用は前年同期の1,700万ユーロに対して4,300万ユーロとなった。

第2四半期の営業総利益は、5,900万ユーロのマイナスであった。上記の経常外項目を修正再表示した営業総利益は1億4,500万ユーロのマイナスだった。

引当金繰入純額は、ほぼ全額が業務訴訟問題に係る約1億ユーロの追加的な引当金積み増しによるもので、2012年第2四半期の100万ユーロの戻入に対し9,600万ユーロの繰入となった。

2013年第2四半期のコーポレートセンターの当期純損益は前年同期の1億3,800万ユーロの利益に対し7,800万ユーロの損失となった。

2013年上半期の営業総利益は、前年同期の5,100万ユーロの利益に対し、14億500万ユーロの損失となった。経済活動と関係ない項目および経常外項目(財務情報の基準となる事項の第8項を参照)。を修正再表示した営業総利益は4億4,600万ユーロの損失であった。同年上半期のグループ当期純利益への寄与は、2012年上半期の9,300万ユーロのマイナスに対し、8億800万ユーロのマイナスだった。

9. 結論

グループ当期純利益は、2013年第2四半期が9億5,500万ユーロ、上半期が13億1,900万ユーロとなり、ソシエテ ジェネラルは大幅な経費削減努力とリスク費用の厳密な管理に支えられ、健全な業績の拡大を達成して上半期を終了した。

進行中の変革計画が、良好な業績と希少資源の厳密な管理と相まって、自己資本比率を改善へと導き、2013年6月末の「バーゼル III」基準によるコア Tier1 比率は9.4%に達した。2013年末のコア Tier1 比率目標である9.5%の達成は既に確実となっている。基礎的な ROE は上半期が8.7%**、2013年第2四半期が10.0%**であった。

このような環境の中で、当グループは、その活発な事業活動、組織構造の簡素化、非常に堅固なバランスシートを根底に、2015年末までに ROE 目標の10%を達成できると確信している。

2013年財務情報開示日程

2013年11月7日	2013年第3四半期の発表
2014年2月12日	2013年第4四半期および2013年通期決算の発表
2014年5月6日	2014年第1四半期の発表

本文書にはソシエテジェネラルグループの目標・戦略に関する予測・意見が含まれています。これらの予測は、一般事項と特別事項（特別の定めのない限り、主に、欧州連合が採択している国際財務報告基準（IFRS）に準拠した会計原則・方法の適用、および既存のブルデンシャル規制の適用）の両方を含む、一連の前提に基づいています。

本情報は、特定の競争・規制環境下における複数の経済前提に基づくシナリオに則して作成されました。

当グループは以下を行うことができない場合があります。

- 当グループの事業に影響をもたらす可能性のある全てのリスク、不透明要因またはその他要因を予測すること、およびそれらが当グループの業務に与える可能性のある影響を評価すること。

- リスクまたは複合リスクにより、実際の業績が本文書に記載されている予測とどの程度異なるかを正確に判断すること。

これらの予測は実現しない可能性があります。投資家の皆様におかれましては、本文書が提供する情報に基づいて投資上の決定をされる際には、当グループの業績に影響をもたらす可能性のある不透明要因やリスク要因を考慮されるようお勧めします。

特に明記しない限り、ランキングは内部資料によるものです。

付属書類 1: グループの主要指標 — 2013 年第 2 四半期および 2013 年上半期

連結損益計算書

(単位: 百万ユーロ)

	2012 年 第 2 四半期	2013 年 第 2 四半期	増減 (%)		2012 年 上半期	2013 年 上半期	増減 (%)	
業務粗利益	6,272	6,233	-0.6%	+4.4%*	12,583	11,321	-10.0%	-6.3%*
営業費用	(3,982)	(3,908)	-1.9%	+2.8%*	(8,311)	(7,975)	-4.0%	+0.1%*
営業総利益	2,290	2,325	+1.5%	+7.1%*	4,272	3,346	-21.7%	-18.7%*
引当金繰入額	(822)	(986)	+20.0%	+31.4%*	(1,724)	(1,913)	+11.0%	+24.3%*
営業利益	1,468	1,339	-8.8%	-5.6%*	2,548	1,433	-43.8%	-44.8%*
固定資産売却損益	(22)	0	+100.0%		(7)	448	NM	
持分法適用会社純利益	14	37	x2.6		61	76	+24.6%	
のれんの減損	(450)	0	+100.0%		(450)	0	+100.0%	
法人税	(441)	(306)	-30.6%		(741)	(425)	-42.6%	
少数株主持分控除前当期純利益	569	1,070	+88.0%		1,411	1,532	+8.6%	
非支配持分損益	133	115	-13.5%		240	213	-11.3%	
当期純利益	436	955	x2.2	x 2,1*	1,171	1,319	+12.6%	+4.5%*
年率換算グループ税引後 ROTE	4.2%	9.9%			6.0%	6.6%		
期末時点の Tier 1 自己資本比率					11.6%	12.7%		

* グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベース

主要部門別税引後純利益

(単位: 百万ユーロ)

	2012 年 第 2 四半期	2013 年 第 2 四半期	増減 (%)	2012 年 上半期	2013 年 上半期	増減 (%)
フランス国内ネットワーク	360	319	-11.4%	686	575	-16.2%
国際リテール バンキング	(231)	59	—	(186)	138	—
コーポレート&インベストメント バンキング	131	374	x2.9	482	868	+80.1%
専門金融サービス&保険	167	197	+18.0%	330	389	+17.9%
プライベートバンキング、グローバルインベストメント マネジメント&サービス	(129)	84	—	(48)	157	—
プライベートバンキング	14	45	x3.2	50	88	+76.0%
アセットマネジメント	(168)	24	—	(131)	50	—
SGSS&ブローカー	25	15	-40.0%	33	19	-42.4%
主力事業部門	298	1,033	x3.5	1,264	2,127	+68.3%
コーポレート センター	138	(78)	—	(93)	(808)	—
グループ合計	436	955	x2.2	1,171	1,319	+12.6%

連結貸借対照表

	2013年6月30日	2012年12月31日	増減 (%)
資産の部 (単位: 十億ユーロ)			
現金および中央銀行預金	72.2	67.6	+7%
損益勘定を通じて公正価格で測定された金融資産	482.4	484.0	-0%
ヘッジ目的デリバティブ	12.2	15.9	-23%
売却可能金融資産	128.1	127.8	+0%
銀行預金	101.7	77.2	+32%
顧客貸出金	341.2	350.2	3%
リース債権および類似契約	27.9	28.7	-3%
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	3.5	4.4	-20%
満期保有目的金融資産	1.1	1.2	-8%
税金資産およびその他の資産	58.6	59.8	-2%
売却目的保有非流動資産	0.5	9.4	-95%
繰延利益配分	0.0	0.0	—
有形および無形固定資産その他	24.7	24.7	0%
資産の部合計	1,254.1	1,250.9	0%

	2013年6月30日	2012年12月31日	増減 (%)
負債の部 (単位: 十億ユーロ)			
中央銀行預金	5.7	2.4	x 2,4
損益勘定を通じて公正価格で測定された金融負債	424.4	411.4	3%
ヘッジ目的デリバティブ	10.7	14.0	-24%
銀行預金	110.6	122.0	-9%
顧客預金	350.0	337.2	4%
証券形態の債務	129.6	135.8	5%
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	4.3	6.5	-34%
税金負債およびその他の負債	59.7	59.3	+1%
売却目的保有非流動負債	1.0	7.3	-86%
保険会社の責任準備金	93.3	90.8	+3%
引当金純繰入額	3.7	3.5	+6%
劣後債務	7.8	7.1	+10%
株主資本	49.4	49.3	0%
非支配持分	3.9	4.3	-9%
負債の部合計	1,254.1	1,250.9	0%

付属書類 2 : 財務情報の基準となる事項

1. 2013年6月30日に終了した当グループの連結決算は2013年7月31日に取締役会において承認された。

2013年6月30日に終了した当グループの連結決算は2013年7月31日に取締役会において承認された。現在、監査役による限定的な監査が行われている。2013年6月30日に終了した6カ月間に関する財務情報は、この日付において適用されている、欧州連合が採択しており、国際財務報告基準(IFRS)に準拠した方法により作成されている。特に、中間期の要約連結財務諸表は、国際会計基準(IAS)第34号「中間財務報告」に則って作成・表示されている。国際会計基準(IAS)第19号の実施に伴い、2012年度決算の数値は修正再表示されているため、前年度の修正再表示後の数値を発表した。

2. **グループ ROE** は、IFRS 基準によるグループの平均株主資本に基づいており、(i)株主資本の部に直接計上された未実現または繰り延べキャピタルゲインもしくはキャピタルロス(転換準備金を除く)、(ii)超劣後債、(iii)株主資本として認識された永久劣後債、を除外し、(iv)超劣後債および修正再表示された永久劣後債に係る支払利息を控除したうえで算出している。また、ROEの算出に使用したグループ当期純利益は、超劣後債に係る当期分の税引き後支払利息、および2006年以降は、超劣後債および修正再表示された永久劣後債に係る税引き後支払利息(2013年6月末は7,500万ユーロ)を除外したものである。

2012年1月1日より、事業間の資本配分では期初時点で9%のリスクウエートを適用する(従来は7%)。それに伴い、既に公表された四半期情報の配分資本に関連するデータの修正を実施した。同時に、標準的資本報酬率は各事業の過去の収益に対する複合効果が中立的になるよう調整した。

3. **普通株 1 株当たり利益**を算出する上で、「グループ当期純利益」を以下の項目に係る税引き後支払利息において修正した(利益の場合は削減し、損失の場合は追加)。

- (i) 超劣後債(2013年第2四半期は6,000万ユーロのマイナス。2013年上期は1億2,500万ユーロのマイナス)
- (ii) 株主資本として認識された永久劣後債(2013年第2四半期は1,500万ユーロのマイナス。2013年上期は2,900万ユーロのマイナス)

したがって、普通株 1 株当たり利益は、修正後の当期純利益を平均発行済み株式数から自己株式を控除した数字で除して求める。ただし、(a)トレーディング目的で保有する自己株式、および(b)流動性契約に基づき保有する自己株式は平均発行済み株式数に含まれる。

4. **純資産**は、以下を除くグループ株主資本より構成される(i)超劣後債(45億ユーロ)、従来は負債に分類されていた永久劣後債(16億ユーロ)、(ii)超劣後債および永久劣後債に係る支払利息。ただし、トレーディング目的で保有する自己株式および流動性契約に基づき保有する自己株式の帳簿価額は含まれている。**有形純資産**は、資産の正味のれん代および持分法適用のれん代を調整する。1株当たり純資産価値または1株当たり有形純資産価値の算出に使用した株式数は、2013年6月30日現在の発行済み株式数から自己株式および金庫株を控除したものである。ただし、(a)トレーディング目的で保有する自己株式、および(b)流動性契約に基づき保有する自己株式は含まれている。

5. **ソシエテジェネラルグループのコア Tier 1 資本**とは、Tier 1 資本から Tier 1 に算入可能なハイブリッド商品の残高およびバーゼルIIに基づく控除率を差し引いたものである。この控除率とは、コア Tier 1 から Tier 1 資本に算入可能なハイブリッド商品を差し引いたものと、コア Tier 1 資本との割合に相当する。

2011年12月31日以降、コア Tier 1 資本とはバーゼルII基準の Tier 1 資本から Tier 1 に算入可能なハイブリッド資本を差し引き、規制に定められている Tier 1 の控除を適用したものとす。

6. **当グループのROTE**は有形資本を基準に算出し、累積平均帳簿資本(当グループの持分)、資産の正味のれん代の平均および持分法適用会社の保有株式に関するのれん代の平均などは控除する。ROTEの算出に使用した当期純利益は、支払利息、超劣後債に係る当期分の税引き後支払利息(当期分の第三者に支払った発行手数料および超劣後債の発行プレミアムに係る割引料、超劣後公社債の償還プレミアムを含む)、当期に株主資本として認識された永久劣後債に係る税引き後支払利息(当期

分の第三者に支払った発行手数料および永久劣後債の発行プレミアムに係る割引料を含む)を除外したものである。

7. 資金調達済バランスシート、預貸率および流動性準備金

資金調達済バランスシートは、保険子会社の寄与を控除し、また、デリバティブ、現先取引、調整勘定を控除した後の当グループのバランスシートを表している。資金調達済バランスシートは以下を反映するために修正再表示された：a) 従来「顧客預金」に分類されていた、現先取引に基づき顧客に引き渡した有価証券および資産（取引先のSGユーロCTの、2013年第2四半期は39億ユーロ相当の残高の控除後）の「現先取引および有価証券の貸借」への再分類；b) 資金調達済バランスシートでの、保険子会社の資産および債務の詳細な修正再表示；c) 国際会計基準（IAS）第39号の改訂で定める要件に従い、2008年に貸付・売掛債権に再分類された原金融資産の再統合；d) 従来「顧客貸出」に分類されていた金融専門会社のオペレーショナルリース固定資産の「長期資産」への再統合。

資金調達済バランスシートにおける欧州中央銀行への貸出は、非常に短期間であることに加えて、経済的には中央銀行の現金と見なされていることから、銀行間資産から分離され、中央銀行の現金預金に分類された。2013年第1四半期末時点の貸出残高は140億ユーロおよび2013年第2四半期末時点の貸出残高は120億ユーロだった。

当グループの**預貸率**は、それぞれ定義されている顧客貸出および顧客預金の比率により算出されている。

2013年第2四半期末時点の流動資産のバッファまたは**流動性準備金**は1,500億ユーロだった。流動性準備金は中央銀行への預金純額780億ユーロ、および主に「HQLA」資産（高品質な流動資産）と呼ばれている流動性カバレッジ比率(LCR)の対象である、中央銀行での利用可能な資産720億ユーロ（利用可能、割引後）により構成されている。全体では、これらの資産は短期残高（無担保短期債および銀行間の債務）の136%に相当する。2012年6月30日時点では、流動資産のバッファ総額は1,140億ユーロ（2012年12月31日：1,330億ユーロ）で、中央銀行への預金460億ユーロ（2012年12月31日：650億ユーロ）および利用可能な資産（割引後）680億ユーロ（2012年12月31日：680億ユーロ）により構成されていた。全体では、これらの資産は短期残高の100%（2012年12月31日：101%）に相当していた。

また、即座に取引可能な資産は270億ユーロ（2012年6月30日：140億ユーロ、2012年12月31日：250億ユーロ）だった。

8. 経済活動と関係ない項目、経常外項目、およびレガシー資産

経済活動と関係ない項目とは金融債務の再評価に相当する。これらの項目、および修正再評価されているその他項目の2013年第2四半期、2012年第2四半期および2013年上半期、2012年上半期の詳細は以下の通り。

	2013年 第2四半期					
	業務粗利益	営業費用	その他	引当金 繰入額	当期純利益	
レガシー資産	84	(12)		(131)	(42)	コーポレート&インベストメントバンキング
金融債務の再評価	53				35	コーポレートセンター
訴訟問題に対する引当金				(100)	(100)	コーポレートセンター
Piraeus 株の売却に伴うキャピタルゲイン	33				21	コーポレートセンター
CVA/ DVA の影響	(106)				(75)	コーポレート&インベストメントバンキング
合計	64				(162)	グループ

	2012年 第2四半期					
	業務粗利益	営業費用	その他	引当金 繰入額	当期純利益	
レガシー資産	(112)	(14)	(1)	(38)	(114)	コーポレート&インベストメントバンキング
SG CIB 主力事業のレバレッジ削減	(159)				(110)	コーポレート&インベストメントバンキング
金融債務の再評価	206				136	コーポレートセンター
Tier 2 債務の買戻し	305				195	コーポレートセンター
減損損失&キャピタルロス			(200)		(200)	プライベートバンキング、グローバルインベストメントマネジメント&サービス
減損損失&キャピタルロス			(26)		(26)	コーポレートセンター
減損損失&キャピタルロス			(250)		(250)	国際リテールバンキング
合計	240				(369)	グループ

	2013年 上半期					
	業務 粗利益	営業 費用	その他	引当金 繰入額	当期 純利益	
レガシー資産	74	(30)		(166)	(87)	コーポレート&インベストメント バンキング
金融債務の再評価	(992)				(650)	コーポレートセンター
NSGB 売却に伴う キャピタルゲイン			417		377	コーポレートセンター
TCW 売却に伴う調整			24		21	コーポレートセンター
CVA / DVA の影響	(170)				(121)	コーポレート&インベストメント バンキング
訴訟問題に対する引当金				(200)	(200)	コーポレートセンター
Piraeus 株持分の売却に伴う キャピタルゲイン	33				21	コーポレートセンター
合計	(1,055)				(639)	グループ

	2012年 上半期					
	業務 粗利益	営業 費用	その他	引当金 繰入額	当期 純利益	
レガシー資産	(169)	(28)	(1)	(153)	(242)	コーポレート&インベストメント バンキング
SG CIB 主力事業の レバレッジ削減	(385)				(266)	コーポレート&インベストメント バンキング
金融債務の再評価	25				17	コーポレートセンター
ギリシャのソブリン エクスポージャー				(23)	(16)	コーポレートセンター
Tier 2 債務の買戻し	305				195	コーポレートセンター
減損損失&キャピタルロス			(200)		(200)	プライベートバンキング、グ ローバルインベストメントマ ネジメント&サービス
減損損失&キャピタルロス			(26)		(26)	コーポレートセンター
減損損失&キャピタルロス			(250)		(250)	国際リテールバンキング
合計	(224)				(788)	グループ

2013年第2四半期および上半期の詳細（英語版）は以下のホームページでご覧いただけます
・グループのホームページ：www.societegenerale.com

本リリースの照会先

ソシエテ ジェネラル証券会社 東京支店

ソシエテ ジェネラル銀行 東京支店

広報部 Tel：03-5549-5580 Fax：03-5549-5129